

Q1 動画作成に協力したいと思いましたが、急な介護と体調の問題などで日程がつきませんでした。

Q2

Q3 市長、議員の役割

市民の福祉向上のための施策を提案し実行する。

Q4 強み

日本共産党の議員は、タブーや忖度なく行政を追及できる。市民の皆さんの声をまっすぐに市政に届けられる。

Q5 弱み

弱点は誰もありますが、それを認め合える社会が大切です。政治的な弱みという意味では特になし。

Q6 今の西尾市

一言でいえば、福祉に冷たい市政。本当に困っている人のところに手が届いていない。たとえば、高すぎる国民健康保険税や介護保険料など、十分な減免制度などが取られていない。

実質的な待機児童が出ている。コロナによって仕事をなくした人や、売り上げの落ちた業者などへの支援が不十分。

子育てしやすい環境とは言えない。たとえば、希望の保育園に入れず、学童保育は小学校3年生までで退所。教育費の負担軽減が図られていない。

PFI事業について見直したことは評価するが、その後、業者いいなりに無駄な支出が続いている。きっぱりと契約解除も念頭に、業者と話をするべき。一色の産廃建設も中止の態度をとってほしい。

Q7 未来

子どもたちが児童の権利条約に基づいて大切にされ、子育てしやすい町にして、出生率を上げる。若者が経済的な心配なく暮らせる町。高齢者が長生きすることを苦痛に思わない町。商売人が、経営を持続できる町。地産地消が進められ農業の後継者を育成できる町。旧幡豆郡と旧西尾市の格差がなくなりどこでも同じサービスが受けられる町。など、市民が「西尾に住んでよかった」と思える町にしたい。

歴史を大切にしながら、無駄な開発など行われず、大規模事業は市民の合意がある、市民参加で進む町。そして、市の職員もやりがいがある行政になること。災害に備えた安心できる町。

Q 8 何をするか

これまでどおり、市民のみなさんのご意見を聞きながら、困っている人の声、くらしの声、営業の声を市政に届けていきます。

Q 9 立候補のきっかけは

91年の県議選買収事件の市民運動が、市政に関わるきっかけでした。その後の補欠選挙で党からの要請もあり、また、当時は白内障の手術ができずに困っているがいて、私でも力になれないかとの思いで決意しました。台風による大雨で町が水浸しになったときは現地で水につかり、東日本大震災でも支援活動にも行きました。今、新型コロナ感染拡大で、誰もが大きな苦難に直面する中、7期目に挑戦する決意をしました。

Q 10

親の跡を継いで42年、本町にある作業服小売「東和商店」を、家族と共に営んできました。商店街は、大型店の出店、通販の利用など、消費生活が変化するなかで、みなさん必死に街と店を守っています。自分は西尾で生まれて育ってき

ました。そんな商売人の思いを、議会で届けてきました。リフォーム助成制度や、市内業者の情報発信ツール、消費税の減税、小規模企業支援法など、提案しました。

22年間、議員生活の中で西尾市の様々な不祥事、最近ではワクチン接種の不正行為、コロナ禍でのコンパニオン宴会など、枚挙にいとまがありません。日本共産党は、金権腐敗政治とは無縁で、しっかりと追及できます。